



議案を審議する参加者

3/13

野菜産地振興へ 向け連携

野菜品目の9部会が一体となり、産地振興に取り組みJ A野菜協議会を設立しました。設立総会では、生産力強化や産地の維持発展、販売力強化など基本事業方針と、販売金額17億1998万円を指すことを決定し、会長に村上真さんを選出しました。



最優秀賞の表彰を受ける(農)ファーム小梨◎

3/19

ブランド力の向上を誓う J A花き部会

第12回通常総会を開きました。令和8年度はいわて平泉ブランドをより大々的に打ち出し販路拡大につながる、品質の高位標準化を図り、販売金額2億8200万円を目指します。任期満了に伴う役員改選では、小岩保寛さんを部会長に選出しました。

4/3

食を支える農業に理解を



一関市教育委員会の時枝直樹教育長◎へ手渡す那須元一専務

J Aバンク副読本「農業とわたしたちのくらし」と、岩手県農協青年組織協議会とJ A岩手県信連が作成した「いわてアグリBOOK」を一関市と平泉町の教育委員会へ寄贈しました。管内の小学校で、食農教育や地域農業へ理解を深めるために役立てられます。



委嘱状を受け取る生活シーダーの菊池悦子さん◎

4/9

特技や趣味で地域活性化

J A生活シーダー委嘱状交付式を行い、24人を生活シーダーとして委嘱しました。2年間の任期中、料理や手芸などの特技や趣味、専門知識を生かし、女性部や農家組合、任意団体の講習会で講師を務め、地域活動のアドバイザーとして、地域の活性化を目指します。

4/3

事故なく健康に過ごす J A女性部花泉中央支部



千葉勝博校長◎にお守りを贈る部員

花泉小学校に入学した子どもたちが事故なく元気に学校生活を送れるように願いを込めて、古代米のわらで手作りした亀のお守り59個を同校に届けました。佐々木若子支部長は「毎日健康に過ごして、事故に遭わずに学校に通ってほしい」と願いました。

環境に配慮した農業に取り組む生産者を認定する「みどり認定」で、JAがグループ認定を受けました。米を生産する564経営体が対象で、稲刈り後の圃場を耕し、稲株などを土にすき込む秋耕により温室効果ガスの削減に取り組み、有利販売につながります。

3/31

環境に優しい農業を実施



一関農林振興センターの吉田正博所長⑥から認定証を受け取る佐藤一則組合長



後藤次長の説明に注目する部員

4/10

家庭菜園のポイント理解 JA女性部川崎中央支部

第1回畑の講習会を開き、JA営農部の後藤忠行次長から、ジャガイモの植え付けやニンジン種の種まき、栽培管理を学びました。全14回にわたり講習会を行う予定で、8品目を栽培し、収穫した野菜は料理講習会で使う他、「川の駅子ども食堂」に提供されます。



キュウリを見ながら管理作業を確認する生産者

4/10

生育状況に応じた管理を JAきゅうり部会

促成キュウリ巡回指導会を行いました。ハウス2カ所を巡回し、生育状況や天候に応じて適切に温度管理をすることや、摘芯や摘葉作業は樹勢などの状況を見ながら、遅れずに行うことを確認しました。JA管内のキュウリ出荷は、4月中旬から始まっています。



種もみへ水やりをする児童

4/10

上手に種まきできたかな 滝沢小学校(一関)

5年生23人は、JA一関青年部真滝支部の指導で、ひとめぼれの種まき作業を体験しました。苗箱に土を入れ、均一に種もみをまき、水やり、土をかぶせる作業をグループごとに分かれて体験。田植えに向け、立派な苗に育つよう期待を膨らませました。



今後の管理について説明を聴く部会員

4/13

アブラムシの発生に注意 JAなす部会

トンネルなす定植指導会を佐藤文司さん(花泉)の圃場で開き、圃場準備や定植後の管理作業などを確認しました。一関農業改良普及センターの西張勝太技師が、高温によるアブラムシの発生を報告し、病害虫の早期発見と初期防除に努めるよう呼び掛けました。